

15 最後の元老；西園寺公望

京都に生まれた西園寺公望（1849-1940）は、戊辰戦争に従軍しました。軍人を目指していた西園寺は、明治政府の命令で1871（明治4）年から1880（明治13）年まで約10年間にわたってフランスに留学しました。留学中は、法学者エミール・アコラス（1826-1891）の私塾やパリ大学法学部で法律を学びました。

帰国後は政治家の道に進み、1906（明治39）年に内閣総理大臣に就任しました。19世紀末から第二次世界大戦前まで、元老という天皇を補佐する重臣が存在しました。西園寺は、9名いた元老の一人で、彼の死と共に元老の制度も消滅したことから、西園寺は最後の元老と言われています。

西園寺は、アコラスの私塾で、ジョルジュ・クレマンソーと知り合いました。クレマンソーが数千点もの日本の美術品をコレクションした背景は、西園寺の影響もあったとも考えられています。1919（大正8）年にパリ講和会議の全権を務めた西園寺は、クレマンソー首相と再会しました。そして、二人とも二度首相を務めました。

西園寺の回想録「陶庵随筆」の中で、1870年代にパリ・オペラ座前の通り（rue de la Paix）の店に醤油が売られていたことが書かれています。90歳という長寿を全うした西園寺は、最晩年には日本料理にフランスパンを合わせて食べていたというエピソードが残されています。



SAIONJI Kinmochi
(National Diet Library, Japan)
西園寺公望（国立国会図書館）

掲載日：2022年4月29日